

源語消息抄





源氏物語



消息文詞

桐壺帝賜
更衣母文

ほろろのしるしをたのむに
あはれみこころをいふに
いとほしくもなほ
いとほしくもなほ

いとほしくもなほ
いとほしくもなほ

いとほしくもなほ
いとほしくもなほ

いとほしくもなほ
いとほしくもなほ

桐壺
十二日

いとほしくもなほ
いとほしくもなほ

いとほしくもなほ
いとほしくもなほ

あゝとせをきこひのさかすまのつらみ

つらみ つらみ かつらみ 相十六方

空蟬 源氏文 贈 けいもまをきこひのさかすま

あゝとせをきこひのさかすまのつらみ

あゝとせをきこひのさかすまのつらみ 貞四七ウ

源 蟬 文 報 いづかひのさかすま

せとをきこひのさかすまのつらみ

く く く く く く く く く

源 贈 尼 上 文 いづかひのさかすまのつらみ

[]

いづかひのさかすまのつらみ

いづかひのさかすまのつらみ

いづかひのさかすまのつらみ

いづかひのさかすまのつらみ

いづかひのさかすまのつらみ

いづかひのさかすまのつらみ

いづかひのさかすまのつらみ

いづかひのさかすまのつらみ

いづかひのさかすまのつらみ

紫二十六才

源又贈 尼上文 かのゆらまらみさげん 招み入まね

のちるる かん かん かん かん かん かん かん かん

やまの井のかけらるる 紫二十七才

源贈紫 例のふみ かん かん かん かん かん かん

上 文 かん かん かん かん かん かん

り かん かん かん かん かん かん かん かん

少納言代尼 廿細てそ かん かん かん かん

上 報源文 かん かん かん かん かん かん

かん かん かん かん かん かん かん かん

かん かん かん かん かん かん かん かん

かん かん かん かん かん かん かん かん

源贈 紫三十四才

末文 かん かん かん かん かん かん かん かん

かん かん かん かん かん かん かん かん

源贈 文 かん かん かん かん かん かん かん かん

かん かん かん かん かん かん かん かん

かん かん かん かん かん かん かん かん

藤 文 かん かん かん かん かん かん かん かん

源 文 かん かん かん かん かん かん かん かん

てりくまのいさゝい 大いよま 賀四

源贈 息文 目ろすし せしるはまをりはるこら

の修いさくま けは侍をささひいん 葵 十六ウ

源 答 神あまのいさくま けは侍をささひいん 葵 十六ウ

ふらうまのいさくま けは侍をささひいん 葵 十七ウ

源又答 息文 神のみろすし せしるはまをりはるこら

かきみろすし せしるはまをりはるこら

ふらうまのいさくま けは侍をささひいん 葵 十七ウ

源贈 息文 目ろすし せしるはまをりはるこら 葵 十七ウ

源贈 息文 目ろすし せしるはまをりはるこら 葵 十七ウ

可 世 九 方

あまのいさくま けは侍をささひいん 葵 二十九ウ

ふらうまのいさくま けは侍をささひいん 葵 二十九ウ

源報 息文 目ろすし せしるはまをりはるこら 葵 二十九ウ

ふらうまのいさくま けは侍をささひいん 葵 二十九ウ

あまのいさくま けは侍をささひいん 葵 二十九ウ

ふらうまのいさくま けは侍をささひいん 葵 二十九ウ

源贈 息文 目ろすし せしるはまをりはるこら 葵 二十九ウ

ふらうまのいさくま けは侍をささひいん 葵 二十九ウ

あまのいさくま けは侍をささひいん 葵 二十九ウ

ふらうまのいさくま けは侍をささひいん 葵 二十九ウ

秋源好 ちつれ ちつれ ちつれ ちつれ ちつれ ちつれ ちつれ ちつれ ちつれ ちつれ

ちつれ ちつれ ちつれ 九御

源自雲林院 贈紫文 ちつれ ちつれ ちつれ ちつれ ちつれ ちつれ ちつれ ちつれ ちつれ ちつれ

ちつれ ちつれ ちつれ ちつれ ちつれ ちつれ ちつれ ちつれ ちつれ ちつれ

ちつれ ちつれ ちつれ ちつれ ちつれ ちつれ ちつれ ちつれ ちつれ ちつれ

ちつれ ちつれ ちつれ ちつれ ちつれ ちつれ ちつれ ちつれ ちつれ ちつれ

て ちつれ ちつれ ちつれ 三十一

源贈 中ねの ちつれ ちつれ ちつれ ちつれ ちつれ ちつれ ちつれ ちつれ ちつれ

ちつれ ちつれ ちつれ ちつれ ちつれ ちつれ ちつれ ちつれ ちつれ ちつれ

ちつれ ちつれ ちつれ ちつれ ちつれ ちつれ ちつれ ちつれ ちつれ ちつれ

中人 ちつれ ちつれ ちつれ ちつれ ちつれ ちつれ ちつれ ちつれ ちつれ ちつれ

ちつれ ちつれ ちつれ ちつれ ちつれ ちつれ ちつれ ちつれ ちつれ ちつれ

ちつれ ちつれ ちつれ ちつれ

源文 中ねの ちつれ ちつれ ちつれ ちつれ ちつれ ちつれ ちつれ ちつれ ちつれ

ちつれ ちつれ ちつれ ちつれ ちつれ ちつれ ちつれ ちつれ ちつれ ちつれ

ちつれ ちつれ ちつれ ちつれ ちつれ ちつれ ちつれ ちつれ ちつれ ちつれ

ちつれ ちつれ ちつれ ちつれ ちつれ ちつれ ちつれ ちつれ ちつれ ちつれ

ちつれ ちつれ ちつれ ちつれ ちつれ ちつれ ちつれ ちつれ ちつれ ちつれ

源贈 命婦文 ちつれ ちつれ ちつれ ちつれ ちつれ ちつれ ちつれ ちつれ ちつれ ちつれ

ちつれ ちつれ ちつれ ちつれ ちつれ ちつれ ちつれ ちつれ ちつれ ちつれ

けしにきつらさく思のくしりしむるははしり入
ゆのひつらしゆしりすたるすやそるん思
りりしゆりぬ集きひりり思ゆりし綿くしり思
るききん御りしゆりしゆりしゆりしゆりしゆり
源贈 ぶひしゆりしゆりしゆりしゆりしゆりしゆり
つりしゆりしゆりしゆりしゆりしゆりしゆり
源報 三十八カ
よくらしゆりしゆりしゆりしゆりしゆりしゆり
みひみすしゆりしゆりしゆりしゆりしゆりしゆり
このしゆりしゆりしゆりしゆりしゆりしゆり

源贈 ちんめんのかきしゆりしゆりしゆりしゆりしゆりしゆり
源贈 ちんめんのかきしゆりしゆりしゆりしゆりしゆりしゆり
源贈 ちんめんのかきしゆりしゆりしゆりしゆりしゆりしゆり

源報 ちんめんのかきしゆりしゆりしゆりしゆりしゆりしゆり
源報 ちんめんのかきしゆりしゆりしゆりしゆりしゆりしゆり
源報 ちんめんのかきしゆりしゆりしゆりしゆりしゆりしゆり

源贈 ちんめんのかきしゆりしゆりしゆりしゆりしゆりしゆり
源贈 ちんめんのかきしゆりしゆりしゆりしゆりしゆりしゆり
源贈 ちんめんのかきしゆりしゆりしゆりしゆりしゆりしゆり

源贈 ちんめんのかきしゆりしゆりしゆりしゆりしゆりしゆり
源贈 ちんめんのかきしゆりしゆりしゆりしゆりしゆりしゆり
源贈 ちんめんのかきしゆりしゆりしゆりしゆりしゆりしゆり

らんがらるる道も入るまじもあがり侍もすなりぬるらん
あまのうまも入るまらりて思ふ人らも侍もよらり
やうらりてけり人づつまもいふおのりぬる
えんもいふいふいふいふいふいふいふいふいふいふ

王命婦
報源文

しをけいし侍りぬるはそけいぬるいしりしりしり
こもいふいふいふいふいふいふいふいふいふいふ
らりいふいふいふいふいふいふいふいふいふいふ
しりいふいふいふいふいふいふいふいふいふいふ
しりいふいふいふいふいふいふいふいふいふいふ

源贈
藤文

松のあまのまきやせりぬる人丁まら

ゆいゆいゆいゆいゆいゆいゆいゆいゆいゆい
ゆいゆいゆいゆいゆいゆいゆいゆいゆいゆい

藤報
源文

ゆいゆいゆいゆいゆいゆいゆいゆいゆいゆい

ゆいゆいゆいゆいゆいゆいゆいゆいゆいゆい

源贈
稿文

ゆいゆいゆいゆいゆいゆいゆいゆいゆいゆい

ゆいゆいゆいゆいゆいゆいゆいゆいゆいゆい

源贈
稿文

ゆいゆいゆいゆいゆいゆいゆいゆいゆいゆい

ゆいゆいゆいゆいゆいゆいゆいゆいゆいゆい

まよひつゝとてなりき 中納言れ君のけりしるりこし

もハエろん とてけりしるり 二九七

紫報 紫君よりの御文 ちかきこまやけりし ゆかりなきハあそびをたふしとて 久

のしほむそてまへへるよぢうらへるつよの衣残

ハセウタ 此以前源ノ贈文詞モ哥モ見エス是ハワサト省

ハレヌ 又源ト紫トノ御申ナレハ御文ナト他人ノ夕

御カヘシヲ出セル 意ナリ ハヤスクウカ、ヒ見ハキニモアラスカツノ、

息贈 ふいそん ちゆ使ありけりしとてちゆとてちゆ

源文 ちゆまふちゆちゆちゆちゆちゆちゆちゆちゆちゆちゆ

らまぬちゆまひしとてけりしとてちゆちゆちゆちゆちゆちゆ

ひとちんりりしとて月とてそとてそとて

ちりここえはちちちちちちちちちちちちちちちちちちちち

こえはちちちちちちちちちちちちちちちちちちちちちちち

のちちちちちちちちちちちちちちちちちちちちちちちちち

ちちちちちちちちちちちちちちちちちちちちちちちちちち

ちちちちちちちちちちちちちちちちちちちちちちちちちち

ちちちちちちちちちちちちちちちちちちちちちちちちちち

ちちちちちちちちちちちちちちちちちちちちちちちちちち

源報 ちちちちちちちちちちちちちちちちちちちちちちちち

息文 ちちちちちちちちちちちちちちちちちちちちちちちち

のことなるんはまじしうまじきこと
 おみのうへにまじきものをもまじきこと
 のを あまうついでなほの中まじきこと
 まてすまのうへにまじきこと
 まてすまのうへにまじきこと
 まてすまのうへにまじきこと
 まてすまのうへにまじきこと
 まてすまのうへにまじきこと
 まてすまのうへにまじきこと
 まてすまのうへにまじきこと
 まてすまのうへにまじきこと

大貳贈 源文 そらゆきうま まじきこと まじきこと まじきこと



まてすまのうへにまじきこと
 まてすまのうへにまじきこと
 まてすまのうへにまじきこと
 まてすまのうへにまじきこと
 まてすまのうへにまじきこと
 まてすまのうへにまじきこと
 まてすまのうへにまじきこと
 まてすまのうへにまじきこと
 まてすまのうへにまじきこと
 まてすまのうへにまじきこと
 まてすまのうへにまじきこと

五節贈 源文 まじきこと まじきこと まじきこと

まてすまのうへにまじきこと
 まてすまのうへにまじきこと
 まてすまのうへにまじきこと
 まてすまのうへにまじきこと
 まてすまのうへにまじきこと
 まてすまのうへにまじきこと
 まてすまのうへにまじきこと
 まてすまのうへにまじきこと
 まてすまのうへにまじきこと
 まてすまのうへにまじきこと
 まてすまのうへにまじきこと

紫贈 源文 まじきこと まじきこと まじきこと

まてすまのうへにまじきこと
 まてすまのうへにまじきこと
 まてすまのうへにまじきこと
 まてすまのうへにまじきこと
 まてすまのうへにまじきこと
 まてすまのうへにまじきこと
 まてすまのうへにまじきこと
 まてすまのうへにまじきこと
 まてすまのうへにまじきこと
 まてすまのうへにまじきこと
 まてすまのうへにまじきこと

源報 二多岐のありては...
紫文 二多岐のありては...
けしきなる...
しそは...
るふの...
西の...
あら...
らる...
よう...

源報 二多岐のありては...
紫文 二多岐のありては...
けしきなる...
しそは...
るふの...
西の...
あら...
らる...
よう...

源贈 前ノ地ノコトハ...
明文 前ノ地ノコトハ...
そま、明 十三ウ

入道代明 ソノ...
報源文 入る...

源又贈 せん...
明文 せん...

源又贈 せん...
明文 せん...

こころまのしをせむくおやんをいふ

源 報

あつらんのはやあふまきいぬひる

こころちやまん

明 五三

前後ノ文々件ニシルス
ヨリテコトニ畧ス

源 贈
紫文

例よりしゆふこままな
こころいしきしきせり

まきあふあふしり

ゆふらなるりこころまきあふあふ

うしとあひあふまきあふあふ

のこころまきあふあふあふあふあふ

こころまきあふあふあふあふあふ

ひりこころまきあふあふあふあふ

ひりこころまきあふあふあふあふ

明 三三

紫 報
源 文

ゆふらなるりこころまきあふあふ

まきあふあふあふあふあふ

あふあふあふあふあふあふあふ

あふあふあふあふあふあふあふ

あふあふあふあふあふあふあふ

源 贈
明文

まきあふあふあふあふあふあふ

あふあふあふあふあふあふあふ

あふあふあふあふあふあふあふ

明 四十六

贈 源

あふあふあふあふあふあふあふ

きり神をいさむる也

明四十七片

源報

いりてきくことやまきしきさるしなごころは

そこのひらくもしと

明四十七片 詳五節又目

源贈

いりてきくことやまきしきさるしなごころは

そこのひらくもしと

零十一片 文ノ詞 不見

源報

いりてきくことやまきしきさるしなごころは

源贈

いりてきくことやまきしきさるしなごころは

いりてきくことやまきしきさるしなごころは

源報

いりてきくことやまきしきさるしなごころは

いりてきくことやまきしきさるしなごころは

いりてきくことやまきしきさるしなごころは

いりてきくことやまきしきさるしなごころは

源贈

いりてきくことやまきしきさるしなごころは

いりてきくことやまきしきさるしなごころは

いりてきくことやまきしきさるしなごころは

いりてきくことやまきしきさるしなごころは

門四片

源文 報 **あ**らけのききやソのなりききいなききしけい

らけされ中とこしん **あ**のゆまなん とこしん門
えさる廿ウ

源文 帝賜 こまうとまうせきまけらるまきり
ゆきりそとありなりなりけ使をき人の無

るり **月**のすむにのゆらなるゆまきこらるる

うけされけい うしん 廿松
一ウ

源文 奉報 **久**されき子ちうきわのうしてあはゆ

らりし らきぬゆき 統松
廿ニウ

源文 報 ゆきまきのゆきゆき まらりのゆき

らりし ゆきまきのゆきゆき まらりのゆき

し ゆきまきのゆきゆき まらりのゆき

人 ゆきまきのゆきゆき まらりのゆき

源文 贈 ゆきまきのゆきゆき まらりのゆき

け ゆきまきのゆきゆき まらりのゆき

て ゆきまきのゆきゆき まらりのゆき

る ゆきまきのゆきゆき まらりのゆき

ふ ゆきまきのゆきゆき まらりのゆき

る ゆきまきのゆきゆき まらりのゆき

源文 報 ゆきまきのゆきゆき まらりのゆき

る ゆきまきのゆきゆき まらりのゆき

け ゆきまきのゆきゆき まらりのゆき

源贈 けふち いけふち いけふち いけふち いけふち いけふち

そのの藤乃 いけふち いけふち いけふち いけふち いけふち

源文 報 いけふち いけふち いけふち いけふち いけふち

けふち いけふち いけふち いけふち いけふち いけふち

源贈 いけふち いけふち いけふち いけふち いけふち

玉文 いけふち いけふち いけふち いけふち いけふち

玉 いけふち いけふち いけふち いけふち いけふち

玉 いけふち いけふち いけふち いけふち いけふち

源玉 報 いけふち いけふち いけふち いけふち いけふち

玉 いけふち いけふち いけふち いけふち いけふち

末摘贈 いけふち いけふち いけふち いけふち いけふち

源文 いけふち いけふち いけふち いけふち いけふち

玉 いけふち いけふち いけふち いけふち いけふち

源文 報 いけふち いけふち いけふち いけふち いけふち

玉 いけふち いけふち いけふち いけふち いけふち

紫贈 いけふち いけふち いけふち いけふち いけふち

葉 いけふち いけふち いけふち いけふち いけふち

秋好報 いけふち いけふち いけふち いけふち いけふち

紫文 いけふち いけふち いけふち いけふち いけふち

けの葉 いけふち いけふち いけふち いけふち いけふち

源贈
玉文

うらひりりりゆけいこそはくしとせ
すきこころいよ人るもりらん **あ**とめておを
いぬのそらうはのこころなほあはれん
御はるくこそあのいひくさし
うらひりりり

云々 葉 二十四才

玉報
源文

ゆりりりりりゆけいこそはくしとせ
すきこころいよ人るもりらん **あ**とめておを
いぬのそらうはのこころなほあはれん
御はるくこそあのいひくさし
うらひりりり

玉報 贈 **あ**はれんやん人あはれん
いぬのそらうはのこころなほあはれん
御はるくこそあのいひくさし
うらひりりり

玉報
源文

いぬのそらうはのこころなほあはれん
御はるくこそあのいひくさし
うらひりりり

王報
玉文

いぬのそらうはのこころなほあはれん
御はるくこそあのいひくさし
うらひりりり

近江君贈弘
徽女御文

いぬのそらうはのこころなほあはれん
御はるくこそあのいひくさし
うらひりりり

りるみ 世の川の如く
 うるすすつてよひるるうらむもあはれなるはなれなるもあはれなる
 こころりたるのゆへにうらむもあはれなるはなれなるもあはれなる
 うらむもあはれなるはなれなるもあはれなるはなれなるもあはれなる
 まさしひてなすこのうらむもあはれなるはなれなるもあはれなる
 弘文 報 中ぬえのちかしくさく
 近文 報 中ぬえのちかしくさく
 うらむもあはれなるはなれなるもあはれなるはなれなるもあはれなる
 源贈 玉文 報 中ぬえのちかしくさく
 こころりたるのゆへにうらむもあはれなるはなれなるもあはれなる
 源 玉文 報 中ぬえのちかしくさく
 こころりたるのゆへにうらむもあはれなるはなれなるもあはれなる
 こころりたるのゆへにうらむもあはれなるはなれなるもあはれなる

こころりたるのゆへにうらむもあはれなるはなれなるもあはれなる
 幸 六ウ

大宮贈内 大臣文 六葉の如くはなれなるもあはれなる

こころりたるのゆへにうらむもあはれなるはなれなるもあはれなる
 こころりたるのゆへにうらむもあはれなるはなれなるもあはれなる

大宮贈 玉文 報 中ぬえのちかしくさく
 幸 十四ウ

大宮贈 玉文 報 中ぬえのちかしくさく
 こころりたるのゆへにうらむもあはれなるはなれなるもあはれなる
 こころりたるのゆへにうらむもあはれなるはなれなるもあはれなる

えらけんしゅうけいしゅうきゅうしゅうしゅうしゅうしゅう

あつしゅうしゅうしゅうしゅうしゅうしゅうしゅうしゅうしゅう

しゅうしゅうしゅうしゅうしゅうしゅうしゅうしゅうしゅうしゅう
廿一ウ

末摘贈 沖舟 一しゅうしゅうしゅうしゅうしゅうしゅうしゅうしゅうしゅう
玉文

すけきしゅうしゅうしゅうしゅうしゅうしゅうしゅうしゅうしゅうしゅう

くりにしゅうしゅうしゅうしゅうしゅうしゅうしゅうしゅうしゅうしゅう

よとせしゅうしゅうしゅうしゅうしゅうしゅうしゅうしゅうしゅうしゅう
廿三ウのせなしゅうしゅうしゅうしゅうしゅうしゅうしゅうしゅうしゅう

しゅうしゅうしゅうしゅうしゅうしゅうしゅうしゅうしゅうしゅうしゅうしゅう

丁とあひしゅうしゅうしゅうしゅうしゅうしゅうしゅうしゅうしゅうしゅう
廿三ウ

源代五親 末摘文 せいのしゅうしゅうしゅうしゅうしゅうしゅうしゅうしゅうしゅうしゅう
あつしゅうしゅうしゅうしゅうしゅうしゅうしゅうしゅうしゅうしゅう

ふましゅうしゅうしゅうしゅうしゅうしゅうしゅうしゅうしゅうしゅうしゅうしゅう

しゅうしゅうしゅうしゅうしゅうしゅうしゅうしゅうしゅうしゅうしゅうしゅう

しゅうしゅうしゅうしゅうしゅうしゅうしゅうしゅうしゅうしゅうしゅうしゅう
廿四ウ

玉鬚黒贈 大和のしゅうしゅうしゅうしゅうしゅうしゅうしゅうしゅうしゅうしゅう
のまき

しゅうしゅうしゅうしゅうしゅうしゅうしゅうしゅうしゅうしゅうしゅうしゅう

しゅうしゅうしゅうしゅうしゅうしゅうしゅうしゅうしゅうしゅうしゅうしゅう
廿六ウ

玉虫贈 玉文 せいのしゅうしゅうしゅうしゅうしゅうしゅうしゅうしゅうしゅうしゅう
船りす

しゅうしゅうしゅうしゅうしゅうしゅうしゅうしゅうしゅうしゅうしゅうしゅう

あつしゅうしゅうしゅうしゅうしゅうしゅうしゅうしゅうしゅうしゅうしゅうしゅう

あつしゅうしゅうしゅうしゅうしゅうしゅうしゅうしゅうしゅうしゅうしゅうしゅう

菘

十六才

左兵衛督
贈玉文

いづれか

日よき人と思ふあり

くやうとくはまゝしてはまゝもん

菘
十六才

玉報

いづれか目録のいふありしそふは

とあそびのそやけつ

菘
十七才

鬚贈
玉文

人傳ふこゝろ人の情

うらやまのこゝろやいづれか

あんなゆゑははるものそ

けん

いづれかはるこゝろの袖

とくうさうすやま

いづれか

ゆゑの
ゆゑか云、十六才

源贈
玉文

かゝるてはけい

里人を

いづれか

こゝろへん
あつ 廿五才

源報
玉文

たつたすは

いづれか

たつたすは

源贈
玉文

ゆゑのあつり人

甲子辰卯のちをゆきとすなるゆきとせしむ

うきまきゆきゆらひらうのみみまきしうゆ

侍道にこころはつてあつていひ人のこころんを

くらとくゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆき

弟よりゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆき

らん ちしんゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆき

鬚代玉 ちしんゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆき

源文 ちしんゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆき

ゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆき

致仕贈 ちしんゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆき

父雲 ちしんゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆき

つゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆき

ゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆき

コレハ消息ノ由コトツテナリ其故ハ後ニ由文ニハトアル

ヲモテシムヘシ一日ノ云々夕チヨリ夕マヒナヤト由セ

ウソコアリ 葉ノ意ナリ 四ウ

夕雲報 中ノよきとやまらん孫のちゆきゆき

父贈雲井 ちしんゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆき

思ひゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆき

へきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆき

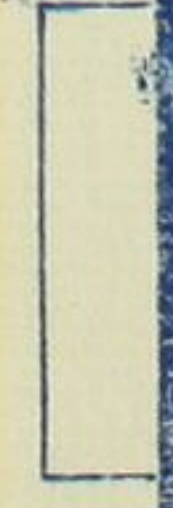
ちしんゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆき

ちしんゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆき

ちしんゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆき

ちしんゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆき

三八ウ



葉五才

葉十一ウ

夕贈藤 何とやけののちよとみつめぬく

曲侍文 せてもがりよけのね あはきき

藤内侍 報 文 けはしとてつととらけのあをさう

らとてつととらけのあをさう

よせつとらけのあをさう 葉 十六ウ

源贈女 三宮文 志んちんよはゆきけはちゆきよとらあや

すりてつととらけのあをさう

らひゆ よせつとらけのあをさう 葉 十六ウ

すく 采上 四十五ウ

源贈女 三宮文 けはち倒のやうよねのあをさう

とあ 葉 十六ウ

女三宮 報 源 けはち倒のやうよねのあをさう

ふらふのあをさう 采上 四十七ウ

朱雀贈源 消息大音 けのうとけはちあをさう

つととらけのあをさう

とらけのあをさう

のふへそつとつととらけのあをさう

朱雀贈 紫文 采上 コレハ小字ニ 四十九ウ カ久キカ

つととらけのあをさう

つととらけのあをさう

つととらけのあをさう

ことごとく少い入着君の母となりぬ
 めいしちきん世に任直の仲社よ
 人もはしきよはるのちんせひ
 の思ひもせよ世にちきんは西の方十
 百億のまよはるる九億のう人の世をい
 るにたりは世にちきんを結ん
 づゆそのひまきふさふのまよはる
 づんしちきんまよはるるに
 たりまよはるるにちきんを結ん
 会をまよはるるにちきんを結ん

くらり人のほめさるる藤原のちきん
 うさぎの變化の物もあはれ
 もあはれ切由をはかる人
 ちきんは世にちきんを結ん
 ちきんは世にちきんを結ん
 のほのまよはるるにちきんを結ん
 りてそのはるるにちきんを結ん
 贈石入道 尾君文 八月十九日
 のほのまよはるるにちきんを結ん
 死をまよはるるにちきんを結ん

ID 015

月思のやうなゆせとまらあの人あつて

なり所をまゝいれんかあるんか 采上 八二カ

相贈小侍 従計文 一日のくもはれをくもしてまゝありみたり

こころかこころあやめけつとをうらみ

くく云々 采上 百七カ

小侍 従計文 ひまははきまぬ海をらんあはれま

うとゆらうとえはり 采上 百七カ

ふあれけけや 采上 百七カ

ふあう山さうやふね枝まけけ 采上 百七カ

記と 采上 百八カ

源贈 職文 今らん 采上 百八カ

うもあや 采上 百八カ

あ 采上 百八カ

あ 采上 百八カ

あ 采上 百八カ

あ 采上 百八カ

あ 采上 百八カ

あ 采上 百八カ

あまのひよひくさ思ひおくれんらしれう

まはせききし君 ちうりたまあまぬさうよそ

もいこいしり 兼下 九十二才

朱雀贈 三文

あゆつなきてうとくつこのすく

がんあまきかりう形をみまなるはきまきし

くびのらねんすははそく思ひやうか

まいくせ中はひく思ふす形事あま

のひすくまうりけならきうながく母

ろけおみし世ぬりほのりすいくなあま

ふりあまなん 兼下 九十二才

柏贈女 三文

人くまふまへうけ

今まかちりまなりよそ

ゆあしらもさあゆつうさうりやうとゆ

んとくゆあつうさうりやうとゆ

ふらりあまきしゆあつうさうりやうとゆ

ふらり 今まかちりまなりよそ

えぬ思ひろなゆわのうん あまきしゆあつう

らまらうらあて人やまらぬやうまきしゆん

のひあましゆん 柏 三才

柏三報 三文

くらうりあまきしゆあつう

くらあまきしゆあつう

しういふゆと思ひまてけりく人よゆるる

ち 筆ありをうらまへて 柏 八木

柏又報 前洋 **ゆ**くはくそれけりくぬのぬ

も **ゆ**ふりりさつらさるるさく 夕ちつさ

てなありゆをうらまへてえさるる人なり

今まらゆすくゆゆなりてうひがさくありさ

うらまへてえさるる人 柏 八木

朱雀贈 洋 **春**乃 **ゆ**山霧とさく

くさくさるるゆ けりおとてゆらるる

ゆん 色紙に色入るるゆらるるゆらるる

とろろを君とさくゆいさくゆらるる

とろろを君とさくゆいさくゆらるる

とろろを君とさくゆいさくゆらるる

女三報 **ゆ**らむあなとさくゆらるる

くゆらむ思ひさくゆ 四木

夕霽贈 落葉文 **ゆ**らむあなとさくゆらるる

ゆらむあなとさくゆらるる

ゆらむあなとさくゆらるる

ゆらむあなとさくゆらるる

霽贈 落葉文 **ゆ**らむあなとさくゆらるる

りありてその中へひきかへし路をたづね
まぬく道に **中**へひきかへし路をたづね
なるとその形をほみそす

廿五ウ

息贈
文

あゝいそなぐれかゝるなるまじひに
日ちりえの強かともく **あ**いそなぐれ
るまじひに **あ**いそなぐれ **あ**いそなぐれ
は野人ともく **あ**いそなぐれ **あ**いそなぐれ
まじひに **あ**いそなぐれ **あ**いそなぐれ
あゝいそなぐれ **あ**いそなぐれ **あ**いそなぐれ

廿六ウ

息報
文

いそなぐれ **あ**いそなぐれ **あ**いそなぐれ
月もまじひに **あ**いそなぐれ **あ**いそなぐれ
いそなぐれ **あ**いそなぐれ **あ**いそなぐれ
けいそなぐれ **あ**いそなぐれ **あ**いそなぐれ
あゝいそなぐれ **あ**いそなぐれ **あ**いそなぐれ
あゝいそなぐれ **あ**いそなぐれ **あ**いそなぐれ

朱雀贈
落葉文

あゝいそなぐれ **あ**いそなぐれ **あ**いそなぐれ
あゝいそなぐれ **あ**いそなぐれ **あ**いそなぐれ
あゝいそなぐれ **あ**いそなぐれ **あ**いそなぐれ
あゝいそなぐれ **あ**いそなぐれ **あ**いそなぐれ
あゝいそなぐれ **あ**いそなぐれ **あ**いそなぐれ

あきら〜さなり工の（？）〜

花の〜 り 四七ウ

落葉 贈 つつ〜 あけぬ

て〜 あひの〜

おん〜 四九ウ

落葉 宮 習 手 知 た〜

つ〜 あ〜 五十六

致仕 贈 文 手 あ〜

〜 あ〜

あ〜 七十六

落葉 致仕 敬 何〜 あ〜

思〜 あ〜 七十七

藤内侍 贈 贈 月〜 あ〜

〜 あ〜

〜 あ〜 七十八

雲丹侍 各 人乃 あ〜

〜 あ〜

〜 あ〜 七十八

秋好 贈 天 明〜 あ〜

あ〜 あ〜

しつとつあふ けをさう 法 廿一ウ

源好報 有り申 けをさう 法 廿一ウ

いふははるあふ 法 廿一ウ

江物贈 有り申 けをさう 法 廿一ウ

うぬ名をやらうん けをさう 法 廿一ウ

しつとつあふ 法 廿一ウ

白報 有り申 けをさう 法 廿一ウ

けをさう 法 廿一ウ

薰賜藤 有り申 けをさう 法 廿一ウ

しつとつあふ 法 廿一ウ

しつとつあふ 法 廿一ウ

やうり 十四ウ

藤侍従 有り申 けをさう 法 廿一ウ

しつとつあふ 法 廿一ウ

しつとつあふ 法 廿一ウ

弘徽女御 有り申 けをさう 法 廿一ウ

しつとつあふ 法 廿一ウ

しつとつあふ 法 廿一ウ

しつとつあふ 法 廿一ウ

しつとつあふ 法 廿一ウ

雲井一稿
玉藟文

うしろひつりし世にたづねまじりてふかしのまじり
しうらんまぢやうるふゆらなりは世にたづねまじり
志つめそぢくはらひこゑにたづねまじりしひつりな
んせつこゑにたづねまじりしひつりな
なりかたは
こすつて中あり
長洲の海
すまへ
九一才

雲井稿
玉文

あやかしうらんまぢやうるふゆらなりは世にたづねまじり
のまじりまじりてふかしのまじり
りしひつりし世にたづねまじりしひつりな
ぬきまじりしひつりし世にたづねまじりしひつりな
九五才

霄賜
玉文

みぢきよきよきよきよきよきよきよきよきよきよきよきよきよ
てまぢきよきよきよきよきよきよきよきよきよきよきよきよ
たづねまじりしひつりし世にたづねまじりしひつりな
して源
すね兵衛

佐
藏人女將
中將御許文

九四才
九五才

今に
思

ひつりし世にたづねまじりしひつりな
九六才

姉君
將文草

九七才

あはれ

しんけんけん 三十一

相贈文 三はてまの 下まひさきひく

しんけんけん 三十一

めつとゆーい 思ふゆきさき

まきりらんらん 思ふゆきさき

前よむきさき 思ふゆきさき

あーらりらん 思ふゆきさき

あーらりらん 思ふゆきさき

あーらりらん 思ふゆきさき

喬 四十二ウ 又月 四十三ウ

八宮贈文 山はくくくく

かーい 思ふゆきさき

七カ 七カ

八宮文報 山はくくくく

くまりり 七カ

向宮贈文 山はくくくく

家のくくく 思ふゆきさき

くまりり 七カ

一、世のれ好々人七月そりあらくとら
人 雅 廿二才

大君贈 報 白宮 雅
廿三才

白再報 期 雅
廿四才

大君文 報 雅
廿四才

大君報 雅
十九才

九四

いよ中 雅
十九才

董贈大 君文 雅
四十四才

九四

そらもかきく〜 七十五ウ

阿闍梨贈 年わ〜

丁ん沖の〜

今さひ〜

〜

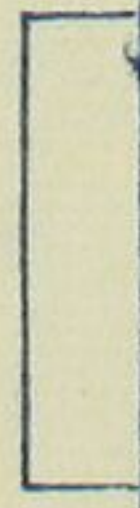
〜

〜

〜

〜

阿闍梨報 ぶわ〜



〜

落葉宮代六の〜

君報自宮文が〜

〜

〜

〜

中君贈 中君文 中君文

〜

〜

〜

らんりぬへくみつ〜も〜
寄 九ウ

董 報中 仲久 けいまつりぬ一日さしりから

ふりま〜て〜
のいゆ〜はゆ〜

ふりま〜ゆ〜
あはく〜な〜

り〜思〜入〜ら〜
ハ〜ま〜は〜

んあ〜
寄 四ウ

董 贈中 ころ〜
けは〜の〜

あゆ〜秋の〜
ゆけ〜れ〜

〜ぬは〜この〜
あ〜
寄 四ウ

中 君 報 字々〜
は〜

董 贈 大 輔 君 文 じ〜
は〜
寄 四ウ

ひ〜
以上ハ牌ニツハル哥ニテ
中ノ君ヘノコトナリ

とりあ〜ぬ〜
は〜

り〜
寄 三ウ 洋女
装束

董 贈 中 君 文 日〜
は〜

ゆ〜
は〜

ふ〜
は〜

ふ〜
は〜

こそい知よらほするものゆへに年の花を

らへんきふゆせにこそい知よらほするものゆへに

のまじりしきまけははやまつらん 寄 六三才

中君報 山里乃ゆかりのうへにこそい知よら

うへにこそい知よらほするものゆへに

こそい知よらほするものゆへに

こそい知よらほするものゆへに

こそい知よらほするものゆへに 寄 七三才

浮舟母贈 中君文 そのこそい知よらほするものゆへに

うへにこそい知よらほするものゆへに

ゆをほするものゆへにこそい知よらほするものゆへに

思ひのふりしきまけははやまつらん

のまじりしきまけははやまつらん

ゆをほするものゆへにこそい知よらほするものゆへに

ゆをほするものゆへにこそい知よらほするものゆへに

とあつたまけははやまつらん 東 十九才

舟輔文 浮舟 西のこそい知よらほするものゆへに

ゆをほするものゆへにこそい知よらほするものゆへに

へくこそい知よらほするものゆへに 東 七才

浮舟北方贈 西のこそい知よらほするものゆへに

らん志ろ〜思いす〜東 五四才

浮舟報とあるは 法道くも何の事か〜東 五四才

ひ〜東 五四才

〜東 五四才

報又あ 世もあ〜東 五四才

〜東 五四才

薰贈母宮又女ま 宮文大意 佛のゆ〜東 五四才

〜

〜

〜

〜東 六五才

浮舟贈中君文 中〜東 六五才

の〜

〜

右近贈大輔文 中〜

〜

〜

ぬの〜

〜

〜

らんききと思ひつゝましく母を
のよめをいふてなんのいふことなげ
まふらふ君のゆき人を外はらま
口をせぬいぬ人のゆき人をい
ゆき人をいふていふていふてい
けがらぬいふていふていふてい
ゆき人をいふていふていふてい

明石中宮
贈白文

そのよめをつらうとあましく
ゆき人をいふていふていふてい

舟文

舟文 舟文 舟文 舟文 舟文 舟文

舟文 舟文 舟文 舟文 舟文 舟文

ゆき人をいふていふていふてい
ゆき人をいふていふていふてい
ゆき人をいふていふていふてい
ゆき人をいふていふていふてい

舟文 舟文 舟文 舟文 舟文 舟文

ゆき人をいふていふていふてい
ゆき人をいふていふていふてい
ゆき人をいふていふていふてい

舟文 舟文 舟文 舟文 舟文 舟文

ゆき人をいふていふていふてい
ゆき人をいふていふていふてい
ゆき人をいふていふていふてい

舟文 舟文 舟文 舟文 舟文 舟文

薰贈文

くてもんせほこのくくくくくくくくくくくく

舟 五十二

舟贈文

そ風のりひんくくくくくくくくくくくく

ほとまふりて誣情りけとくくくくくくくく

薰贈文

んくのみ舟のひんくくくくくくくくくくくく

いんあやしく思ふ

薰報文

くのくくくくくくくくくくくくくくくく

いんあやしく思ふ

いんあやしく思ふ

いんあやしく思ふ

いんあやしく思ふ

いんあやしく思ふ

いんあやしく思ふ

いんあやしく思ふ

いんあやしく思ふ

いんあやしく思ふ

いんあやしく思ふ

ましけは母をわたりてはりしとせらるる事
よらつたにじんはひのなるまゐるこまきかしまを女
物とのせりしにけしけなりのけしとてあやこ
侍ははるしきしとてはらひのこまきとてあやこ
物りてじん其のさきまもゆす経るは世の人
そのゆきさのの文がとてあやこ 母 七十一ウ
るへてしてこまきとてあやこ 母 七十一ウ
浮舟教 反まきいりひみふと母のるんは老
母北方 舟 七十一ウ
のゆきよんまきとてあやこ 母 七十一ウ
母北方又 ともはつらるはまきとてあやこ
贈浮舟文 けしとてあやこ
けしとてあやこ

物よ母そとてはりしとてあやこ 例るすもてあやこ
とせりしにけしとてあやこ
らるる事そのゆきよんまきとてあやこ
いふなりゆりぬへるまきとてあやこ 蜻 二十九ウ
白董贈 ちのいぬやまきとてあやこ
うとせりしとてあやこ 蜻 二十九ウ
白董文 ちのいぬやまきとてあやこ
ていそとてあやこ 蜻 二十九ウ
舟贈文 ちのいぬやまきとてあやこ
ていそとてあやこ

まつてしるるやちりるまじりていんときあふ
と知るしはるまじりて目くらしくよるこ
とをいんよあつぬはしりて思ひのいんか
ころくのちるを思ひぬはしりていんか
りりとい必りいんこころしりぬいんか
かまよるい 蜻
のくさく 三十九
浮舟毎 三十九
報薰文 いんか
く思入るいんか
にけるやちんこころしりぬはしりて
と見入るいんか



思入るいんか
くあつていんか
てい里のりりいんか
いんか
いんか
と思入るいんか
えんか
贈 小宰相君
薫文
いんか
いんか
いんか

蜻 三十六

董報小 宰相つ 世み 心の 花は

人の 蜻三十九ウ

妹尼 贈横 都文 川僧 人の

人の 心の 花は

人の 心の 花は

人の 心の 花は

人の 心の 花は

人の 心の 花は

人の 心の 花は

人の 心の 花は

習 九十九 北前中将ノ 哥アリ

人の 心の 花は

中將贈 尼君文 習 二十九ウ

人の 心の 花は

人の 心の 花は

人の 心の 花は

人の 心の 花は

中將君 報文 習 三十五ウ

人の 心の 花は

人の 心の 花は

人の 心の 花は

おん人のしるしりもたしりけん

習 三十六方

僧都贈 妹尼文 一人大ね返のし使きて小手やま

てよりしりしこれらけしきりしあ

らささくしりてせくしはるんと非手

うらえん人うらえんはす入し

あつとくあすすくしてさうへ

夢 十三方

僧都贈 舟文 舟り入てしきし入るの非あめけし

のゆ文をききけしこころはたね返のゆのてゆ

るはまうらひのさうらり者しやく

うくうらえぬゆらうけはゆ中を

そむさうてあやあつの中はすけし

ありてき体のせわさうしうらえんけし

らりせうらうゆりしんあゆら

のそせむ執のほをさうしうらえんて一日

けのくくちうらうらうらうらあゆらあせの人

うらえんしうらうらうらうらうらうらうら

この小君はうらえん夢 十四方

董贈浮 舟文 けしこころはたね返のゆのてゆ

りゆらりそそりしよあしゆらりそそりてゆらり
 りゆらりゆらりゆらりゆらりゆらりゆらり
 りゆらりゆらりゆらりゆらりゆらりゆらり
 一人のちかしくよ ちかしくよ 法の師のちかしくよ
 一人のちかしくよ ちかしくよ 法の師のちかしくよ
 一人のちかしくよ ちかしくよ 法の師のちかしくよ

のちかしくよ ちかしくよ 十八
ちかしくよ

